

CONCERTINO

No 9 **di KYOTO**

1967年11月5日（日）午後7時

大谷ホール



音楽のいのちを学ぼう

才能教育研究会々長 鈴木鎮一

カザルスは語る

「音楽は世界を救うであろう」と
人は環境の子なり
幼な子は、その生命のすばらしさをもって美しく高き音楽
の環境に適応し、美しく高き感覚の人となる
この不思議なる生命の血はいつの日にか
必ずや地上の総ての人間の
血となり、心となって
地上に美しく高き人間社会を
つくりあげるであろう
この音楽のいのちを学ぼうと
精進し、ここに第9回の演奏会を迎えたコンセルティーノ・ディ・キヨートの皆さんに私は心からの拍手を
おくりしたい

主催 才能教育研究会京都支部

河野昌彦

1931年 松本市に生れる
1947年 松本深志高校に入学この頃より弦楽器に興味を持ち、奥村信三郎氏に師事し、一年バイオリンを学びビオラに転向、兎東竜夫氏に師事する。
1951年 芸大器楽科ビオラ入学
1955年 芸大卒業と同時に近衛交響楽團に入団
1960年 NHK交響楽團に入団現在に至る



河野昌彦君をお迎えして

新井 覚

河野君は私の松本深志高校時代からの友人です。当時より音楽に情熱を燃していた私たちは、チェロの野村君と北村君（現在松本で高校教師）と共に弦楽四重奏をやったり、現在の野村夫人のピアノを加えたピアノ五重奏をやって大いに楽しみ、亦勉強しました。丁度、旧制の中学校から新制の高校に変わった時でしたので5年間同じ学校で一緒に過ごせたのが幸いして私共の四重奏は大変上達し？さかんに演奏活動をし、とても楽しい時期を持つことが出来ました。その後、彼は演奏家になり私は教師になりましたが、彼は関西方面の旅行の時には必ず立寄ってくれ、今まで以上に深い交友が続いております。演奏家と教師は切れない縁があるのであり、互いに良いアドバイスを仕合って私も得るところが多く幸せです。彼はとても気の抜けない好人物ですが、反面非常に鋭い神経の持ち主です。最近は彼の独奏は聞いたことがありませんので、私も一団員として伴奏しながら久しぶりの独奏を楽しみに聞かせてもらうつもりで居ます。

小谷明正

1949年 京都に生まれる
4才より当才能教育研究会
京都支部で新井覚氏に師事
している。
現在塔南高校3年生



小谷明正君について

私共の才能教育研究会々長鈴木鎮一先生が“人は環境の子なり”と申しましたが、明正君は全くその見本の様な育ち方をして來た弟子です。兄のレッスンについて來て居るうちに何気なくバイオリンをひき始め大して苦労もせずにいつの間に上達して來ました。

最近は内面的な成長がみられる様になり、私も楽しみにしております。バッハ、ベートーベン、ブームスなど思想を主張するドイツ音楽を立派にひきますが、今後はもっと音を求めてしっかり勉強してもらいたいと思っております。

（新井 覚）

壁瀬雅比古

1948年 京都に生まれる
5才より当才能教育研究会
京都で新井覚氏に師事、7
年間バイオリンを学ぶ。
15才より同支部で野村武二
氏に師事してチェロを学び
現在に至る。
同志社大学工学部1回生



壁瀬雅比古君のこと

5才から12才まで当支部でバイオリンを習っていた由、15才の時私の教室に入って来ました。非常に大胆な表現力を持っていますが、時に感情に走るきらいがあり、亦、テンポ、リズムに少々難があります。しかし、何と云ってもチェロが好きで、始めてから4年にしかならないのに殆んどのコンサートを勉強してしまった程で、今後が非常に楽しみです。

（野村武二）

曲 目

1. 調和の幻想 第8番 イ短調

アレグロ ピバルディ
ラルゲット エ スピリトゥ
アレグロ

2. チェロ協奏曲 変ロ長調

アレグロ モデラート ボッケリーニ
アダージョ ノン トロッポ
アレグロ

3. バイオリン協奏曲 イ短調

アレグロ モデラート パッハ
アンダンテ
アレグロ アッサイ

4. 嬉遊曲 へ長調

アレグロ モーツアルト
アンダンテ
ロンド プレスト

5. ピオラ協奏曲 ト長調

ラルゴ テレマン
アレグロ
アンダンテ
プレスト

6. 合奏協奏曲 第5番 ニ長調

ラルゴ ヘンデル
アレグロ
プレスト
ラルゴ
アレグロ
メヌエット ウン ポコ ラルゲット

Programma

1. L'Estro Armonico n. 8 in la min.

Allegro A. Vivaldi
Larghetto e spiritoso
Allegro

2. Concerto per Violoncello in Si bem.

Allegro moderato L. Boccherini
Adagio non troppo
Allegro

3. Concerto per Violino in la min.

Allegro moderato J. S. Bach
Andante
Allegro assai

4. Divertimento in Fa K. 138

Allegro W. A. Mozart
Andante
Rondo Presto

5. Concerto per Viola in Sol.

Largo G. P. Telemann
Allegro
Andante
Presto

6. Concerto grosso op. 6 n. 5 in re.

Largo G. F. Haendel
Allegro
Presto
Largo
Allegro
Menuet un poco Larghetto



コンチェルティーノ ディ キョート (才能教育研究会京都支部合奏科Aクラス)

指揮 井手章夫

河野昌彦 (ビオラ)

独奏 小谷明正 (バイオリン)

壁瀬雅比古 (チェロ)

バイオリン

中村剋之 今井玲子
小谷明正 寺井麻美子
松村裕美子 宇田美代子
田原明子 長尾まや子
森のり子 田中信介
松永裕子

チエロ

野村武二 壁瀬雅比古
田中秀樹

コントラバス

森田昭

チェンバロ

東川加代子

ビオラ

新井 覚 勝馬春美
仲佐悦子

指導

バイオリン 新井 覚

チエロ 野村武二

調和の幻想 第8番 イ短調

アントニオ・ビバルディ (1675~1741)

「調和の幻想」の楽譜は1712年に早くもアムステルダムで出版された。バッハはこの曲集を見てよほど深い興味をおぼえたらしく、12曲のうち実に6曲を鍵盤楽器の協奏曲に編曲している。第8番目もオルガン協奏曲となっているが、全曲ほとんど手を加えず、そのままの引きうつしである。

この曲はビバルディの作品の中で古くから最も広く知られたものである。第1楽章は独奏と合奏が交互に繰返されるリトロルネロ形式で力強い生気にみちている。第2楽章は終始つづくユニゾンの上に2つのバイオリンが歌う。第3楽章はロンド風で、全曲を通じて簡潔なまとまりがみごとである。

チェロ協奏曲 変ロ長調

ルイジ・ボッケリーニ (1743~1805)

ボッケリーニはチェロ奏者として演奏技術を飛躍的に発展させたと云われ、その功績は高く評価されている。彼の作品は室内楽を中心にして数百曲にのぼるが、そのうち最も有名なものは云うまでもなくこの協奏曲である。短い前奏につづいてすぐに独奏の主題に入るソナタ形式の第1楽章、極めて美しい旋律の第2楽章、活潑なロンドの第3楽章から成り、全曲にあふれる詩情は古今のチェロ協奏曲のうちでもすぐれたものである。

現在演奏されているのは19世紀後半にドイツのチェロ奏者グリュツマッヘルの校訂版によっており、原曲とは大きな相違がある。特に第2楽章は原曲とは全く別の曲である。なお、本日は管弦楽部を弦楽のみに編曲したものを演奏する。

バイオリン協奏曲 イ短調

ヨハン・セバスチャン・バッハ (1685~1750)

バッハのバイオリン協奏曲の中では、この曲と第2番が長調とが最もよく演奏される。ともに彼が30才すぎたケーテン時代の作品であるが、華麗なホ長調に対してこのイ短調はより素朴で古風な味わいを持っている。第1楽章は活潑な、しかし重みのある全奏にはじまり、独奏による性格の異った楽句を所々にはさみながら対位法的な展開をみせる。第2楽章は低音の繰返す重々しい旋律と交代にあらわれる独奏の美しくやわらかな旋律が対照的である。第3楽章は8分の9拍子の急速な曲で、やや舞曲風の色彩を帯びており、クーラントあるいはサルタレロに近いものと云われている。

嬉遊曲 へ長調

ウォルフガング・アマデウス・モーツアルト

(1756~1791)

18世紀の貴族たちは食事の時にはお抱えの樂団に伴奏音樂を演奏させたものである。嬉遊曲はそのため作られたもので、肩のこらない、気軽な内容を持っている。編成や形式はさまざまであるが、大てい組曲のように5つから7つくらいの樂章から成っている。

モーツアルトの嬉遊曲は20数曲残っているが、このへ長調は最も初期、1772年に作曲された3曲のうち1つである。前年までの2回にわたるイタリア旅行の収穫である流麗な旋律と、はつらつとした元気にあふれている。急・緩・急の3楽章を持ち、むしろイタリア風序曲——シンファンニアの系統に属する作品である。

ピオラと絃楽合奏の為の協奏曲

ゲオルグ・フリードリッヒ・テレマン (1681~1767)

バイオリンが絃楽器のプリマドンナとして早くから形の上からも、機能の上からも、その位置を確立したのに反して、中音ビオールの一族は常に第二バイオリンや低音の補助的な役割を受け持つものとして、樂器の形や奏法も雑多のままに長い歴史を経てようやく現在のピオラに固定したのである。こうした意味から、バロックの作品には、まず機能的な上からもピオラの為の協奏曲は数少いし、又その原形は現在のピオラのものでなくピオラ・ダモーレやピオラ・ダ・ブラッチャの為のものである。

ピオラのソロは古いオペラの中にも見られるし、協奏曲としては、バッハのプランデンブルグの6番が名作として頭に浮ぶのであるが、所謂協奏曲としてその独奏樂器にピオラを明確大に駆使したのは恐らく此の曲が最初であると考えられている。テレマンの作品としても唯一のものである。

曲は、緩・急・緩・急の四楽章からなる教会ソナタ形式をとっている。終楽章はテレマンがソロ協奏曲に好んで用いる“ブーレ”で終わっている。

合奏協奏曲 第5番 ニ長調

ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデル (1685~1759)

作品6の合奏協奏曲12曲が作曲された1739年頃はヘンデルにとって、2年前の重病・それにつづく王室劇場（彼はその支配人であった）の破産閉鎖・反対派のはげしい妨害など、失意と苦悩の時代であった。それでもかかわらずこの曲集は彼のすばらしい創作力を示し、バロック時代の器楽曲でも最高の作品にかぞえられる。

第5番は2つのバイオリンとチェロを独奏部とし、独奏バイオリンの朗々たる上行音型にはじまる重厚な第1楽章から、自由なフーガ、スケルツォ風のプレスト、緊張をひめた美しいラルゴ、舞曲風のアレグロと、次第に熱を加えるが、最後にはこれを鎮静するような落着いたメヌエットで、ヘンデル得意の変奏が行なわれる。

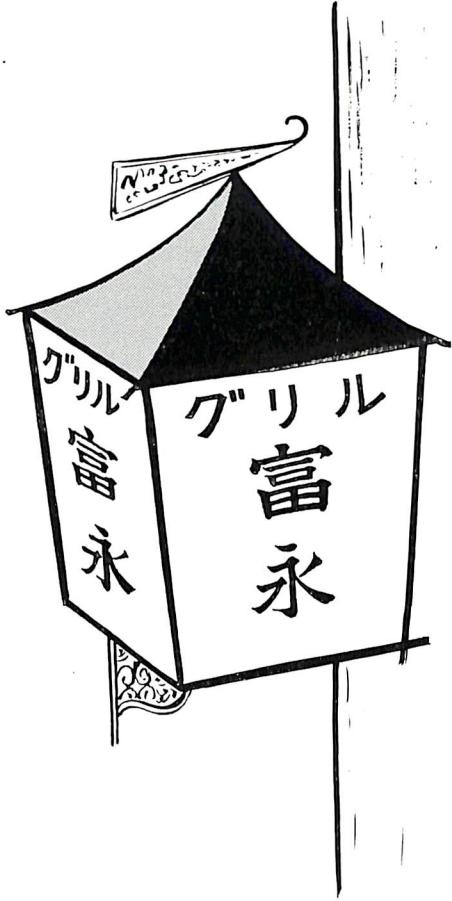
京都市中京区錦小路通室町西入

内科
小児科
レントゲン科

白 紗 数 医 院

医 師 白 数 久 兵 衛

電 話 ② 1 2 8 0 番



市電洛北高校バス停前

TEL (79) 2830

祝

コンチエルティー・ノ・ディ・キヨート

発表会

- おいしかったと、召上了の方によろこんで頂けるよう
- おつかいものにして先様に自慢して頂けるよう
- 京都のどこにもない、焼き立て作りたてのケーキを召上って頂けるよう
- 一品一品、真心こめて製造する
これを私の生きがいとして、ケーキ作りに専念しています

洋菓子と喫茶

マリヤ

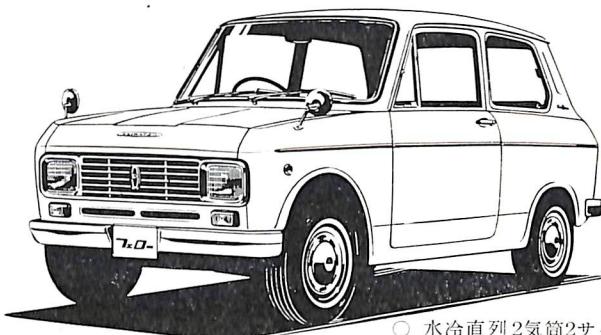
上京区千本中立売下ル西側

TEL (45) 9900

「軽乗用車の決定版」

フエロー

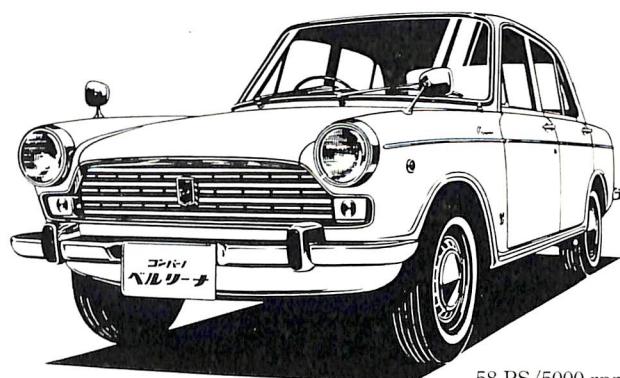
☆軽乗用車唯一の3段式リクライニングシートなど
24項目の新装備を追加して 新らしく 登場 !!



○ 水冷直列2気筒2サイクル
360 cc/23 PS

○ 乗って・・・ ○ 走って・・・
小型の性能・居住性を♪ 軽の超経済性♪

ニュー コンパニー ベルリーナ1000



58 PS/5000 rpm

☆スタイルはぐっと精悍に ☆性能は 1300cc 級にアップ
☆安全性は完璧です



京都ダイハツ販売株式会社

本社	京都市右京区五条通天神川東入 TEL (311) 8191 大代表
伏見営業所	京都市伏見区京阪国道大手筋上ル TEL (61) 3276~8
北営業所	京都市左京区一乗寺河原田町48の2 12月オープン
舞鶴営業所	舞鶴市上安久 651 TEL (5) 3227~9
福知山出張所	福知山市字土師字桐木 509 の4 12月オープン
中古車センター	京都市下京区堀川通五条下ル西側 TEL (35) 9131~3

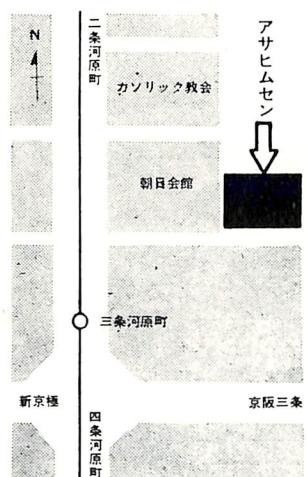
こんなときにもお役に立っています

- 音について語り合いたいとき
- 新しい製品を知りたいとき
- 装置の改造を考えているとき
- 装置の新調を思い立つたとき
- 友達の相談に乗っているとき
- 装置を有利に手放したいとき
- 値打な出物を探しているとき

〈取扱い商品〉

オーディオテクニカ	オーディオテクニカ
オンキヨウ	コレース
C E C	サンスイ
ソニー	サンラル
ダイヤトーン	ジュピターブースト
	マイクロ
	F R
その他	マグネフロート
	マイクロ
	フィデラ
	バイオニア
	トリアオ
	ティアック

輸入品各種
マイクロ
マグネフロート
マイクロ
フィデラ
バイオニア
トリアオ
ティアック



音のデパート
アサヒムセン
京都市中京区河原町通三条上ル東入
電話 京都 ④475

